

九州朝陽会報

平成十九年十一月十五日発行 第四号

平成十九年度

九州朝陽会総会報告

小泉 純理 (新七回)

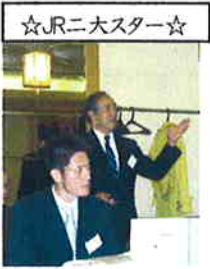
九州朝陽会事務局長

去る10月27日、福岡市内中華料理「八仙閣」にて、年度総会を予定通り開催しました。

より多くの会員の参加を旨とし、昨年のうちに日取りを決め、会場も会員の便宜を考慮して博多駅近辺としましたが、結果として前年より1名増えた23名にとどまりました。幹事会としては、次年度総会には30名の参加を目指し、何か趣向を凝らしたいと考えていますので、是非会員の皆さんからも、忌憚のないご意見、ご提案を期待しております。

総会は、司会を島松幹事、開会の辞を、設立から昨年まで幹事として協力していただき、勤務の関係で千葉県の方に転出され、地域外会員になられた岡本会員(新14回)のご発声で始まりました。

続く石井会長の挨拶では、ご自身の発案で、鉄道の歴史から国鉄分割民営化によるJR九州の今日までの歩み、またリーダーとしての設立時のビジョン、そして鉄道の将来像など、極めて興味深い映像を交えたお話がありました。



☆JR二大スター☆

幹事としては、今後も総会において、会員同窓生の仕事、専門分野、趣味の世界での貴重なお話などを聞く機会を持ちたいと考えていますので、奮ってお申し出いただきたいと思っております。

次に幹事長報告として、今年度会計報告

会費納入など皆さんのご協力のお陰で、18年度も些少ながら、15,664円の次年度繰越金を残し、無事決算いたしました。

・会員の動向について

2名の方が鬼籍に入られ、5名の方が転出、5名の方が退会されました。現会員は74名です。(詳細後記)

・九州朝陽会報について

引き続き4ヶ月毎に発行していく積りで、寄稿をお待ちしています。

・新年度幹事について

会則により、現在の幹事(石井会長、小泉幹事長、豊田、島松、小林、山下、白井幹事)が引き続き留任いたしますが、2名(岡本、小山幹事)が転出され退任されたので、福岡在住でお手伝いいただける方がありましたら、是非お申し出をお待ちしています。

続いて、設立総会時と同様に、本部の

吉村 悟幹事長による、母校の現況、最近の同窓会活動、館山寮水上寮その他の話しが映像を交えてありました。貴重な新宿の昔の町並みの映像などを見せられ、年配の会員は各々懐旧の想いに、若い世代の会員は信じがたい光景に驚きをおぼえたようでした。



二次会は失礼して、わが日ハムを応援しなくては…吉村氏



受付、抽選、撮影など私どもにお任せを 小林、白井

1時間強の総会を終え、最年長の川邊会員の乾杯の音頭で懇親会にはいりました。今回、4テーブルに

6人ずつ。受付時の抽選によるランダム着席にしたので、各テーブル世代を越えた会話で和気藹々とした雰囲気がかもし出されたようでした。



懇親会もたちまち2時間を過ぎ、今回久しぶりに遠路鹿児島から、新12回の田中ご夫妻が参加され、夫人のリードで定番の校歌、健児

の歌合唱となり、3時間にわたる総会は無事終了しました。

いつもながら、校歌斉唱は熱くなりました

成瀬氏おたより



設立総会から3回目の出合いで、既に馴染みの会員もでき、同窓の仲間として世代を越えた絆が生まれる兆しを感じたのは私だけでしょうか。

今回参加者は卒業年次順に

- 川邊正行(新2) 石井幸孝(新3)
- 森本芳樹(新4) 島崎春彦(新6)
- 豊田信夫、小泉純理、
- 神武節子、小坂弘治(新7)
- 新川正直(新8) 渡邊又十郎(新9)
- 森重夫(新10) 大菅裕而(新11)
- 島松尚宏、成瀬輝一、
- 田中幸夫、田中京子(新12)
- 岡本稔(新14) 野上秀昭(新15)
- 佐藤一生(新16) 諫山忠則(新19)
- 小林牧(新28) 山下美智恵(新29)
- 白井康生(新47)

の二十三名でした。

今、なぜ62年前なのか

(沖繩戦と高校歴史教科書検定に思う)

豊田 信夫 (新7回卒)

(株) 中陽副会長

文部科学省は、昭和20年終戦直前の沖繩戦で沖繩県民の集団自決について日本軍の強制があったという「高校歴史教科書の記述を、削除、修正させた。」²沖繩では県民挙げて『歴史の歪曲』と反発が広がっている。沖繩戦の生存者が高齢化し亡くなる今、なぜ教科書を変えるのだろうか。

期せずして6月21日NHK『クロースアップ現代』で『沖繩戦の集団自決の真実』というテーマの放映があった。その中で集団自決の生き残りの方々が(80歳前後)、当時の悲惨な状況と、集団自決について軍の命令があったことを証言していた。

又6月18日〜22日付け毎日新聞朝刊で、『集団自決を追う』というテーマで連載があった。一部紹介すると

『捕虜になると女は強姦され男は殺される、米軍が上陸して来た時は家族を殺せ』と日本軍の隊長は住民に教えた。昭和20年3月26日朝米軍上陸。方々の壕で集団自決が始まる。

金城重明さん(現78歳)は2歳上の兄と共に、近くにあった直径20センチ大の石を取り、最初に母を手にかけた。続いて9歳の妹と6歳の弟も…

「殺意はなかった。しかし米軍が迫る中、愛するものを生かしておくことは残酷だと愛情ゆえに殺したんです。」その後は加害意識の葛藤に苦しみ続ける人生だった。

中村武次さん(現78歳)は、母と20歳の姉と逃げ込んだ壕で集団自決が始まっているのを見た。姉が

『お母さん私から殺して』と懇願する。

中村さんは母と共に一本の荷紐を姉の首に巻いて引いた。姉は足をバタバタさせ、やがて動かなくなる。直後入り口に米兵が現れた。

『出て来い！』殺されると覚悟して出たが殺されなかった。

「姉はその時、まだ生きていたかも知れない、なぜ揺り動かさなかったのか。87歳まで生きた母は、姉のことを一切話さなかった。娘を自分の手で死なせた母は、もっと辛かったはずです。」中村さんの悔いは62年間続く。…

62年前の軍の命令は絶対服従で、服従しなければ非国民と罵られ殺されることもあった。戦争を知らない現代の若者には、想像もつかないことだ。

時を同じくして、62

年前の戦争の悲惨さを描く映画が続々と封切

られた。『父親達の星条旗』、『硫黄島からの手

紙』、『俺は君のためにこそ死にに行く』、『出口のない海』等々。

人の命が紙くずみたいに扱われた。今なお生存する

元特攻隊員の言葉を丹念に集めた日米合作映画『TOKYO

KKO—特攻』も、近く公開が始まる。



現代の平和しか知らない若者達には、ぜひこれらの映画を観て歴史の事実を知って欲しいと思う。

高校歴史教科書の検定で、沖繩県民集団自決に関して、厚生労働省は遺族補償をするにあたり、軍命の存在を認めてきた。それなのに、文部科学省は、日本軍の強制性に触れる記述は『軍命令を否定する学説もある』と言う理由だけで削除、修正させた。

地獄ともいふべき、人間の極限状態を生きた沖繩の歴史の生き証人の証言には、重みがある。国はこれ等歴史の生き証人の証言を無視するのであろうか。

安部総理は、政治は介入せずとしてこの問題には口を閉ざしている。確かに高校歴史教科書検定は、政治とは切り離れた方がいい。しかし、厚生労働省が認めたことを文部科学省がことさらに否定することについては、何か政治が絡んでいる匂いがある。良きにせよ悪きにせよ真実は一つ、歴史上の事実は正確に後世に伝えるのが我々の義務ではないだろうか。

(平成十九年七月寄稿)

脚注:1

原文:日本軍によつて壕を追い出され、あるいは集団自決に追い込まれた住民もあった。

文科省は「沖繩戦の実態について誤解するおそれのある表現である」として、左記のようにした

修正文:そのなかには日本軍に壕から追い出されたり、自決した住民もいた。

脚注:2

琉球新報(内閣健忘) (9/12/94) 沖繩県民大会実行委員会など修正撤回を求め文科省に手渡す署名の数が、累計で51万9637人になる…

福岡をあとにして

(ゆめでたくななくても鯛)

小山 春美 (新25回卒)

終身雇用があたりまえではなくなり、また、企業は早期退職者を数多く募り、転職もめずらしくなくなった。そんな時期に、突然、夫が福岡県で勤務することになった。

愛媛県で生まれ、八才で福島県に移り住んで以来、関東地方に住み、特に、結婚以来約二十年間、茨城県の太平洋側で暮らしてきた。そして、息子の高校進学にあわせて、家族そろって福岡市で暮らし始めたのが、平成十六年の三月、桜の開花の早い、暖かい春だった。ちょうど、清帳さんの「点と線」の偽装心中の死体が横たわっていた海岸の近くである。

私にとっては、四十数年ぶりに生まれた土地より西の地に移り住んだことになる。太平洋側から日本海側へ、地面の上から五階建の最上階(これは大失敗)へ、スーパーマーケットから商店街への生活の変化は、なかなか興味深いものであった。

まず、海からの日の出が、山側からとなり、経度約十一度分、約一時間の違い以上に、朝明るくなるのが遅い。特に冬は、七時過ぎまで薄暗く、一日の時間を損しているような気がした。当然ながら、日の入りは遅いわけで、夏、明るさを時計がわりにして気がつくとき夜の八時である。それでも、外では子供の遊ぶ声がかすかに聞こえてしまふ。日が陰ってから買物など、とんでもない。夕食は何時になることやら、で

ある。ましてや、気に入った商店は七時には店じまいするので、用事にもならない。この日長のおかげで、最上階の住まいは、翌朝まで蓄熱状態。エアコンはきつと、茨城時代の何倍も働いたことであろう。そして、海にも山にも近い恵まれた環境は、茨城も変わらないはずであるが、日焼け止めの消費量もエアコンに負けてはいない。また、ふと気がつくと、川の流れも逆方向である。

ところで、一家の胃袋をあずかる身は、即、買い物が出てら街の探検である。慣れれば普通の商店街も新鮮で楽しいもので、私流「東西でここが違う」発見を御披露したいと思う。

まず目についたのは、大豆製品。見慣れた豆腐の一丁の形が、東は厚みが薄めの直方体で、ここ(福岡)は、立方体に近い。油揚げは、どちらの形は様々であるが、ここは、いなり寿司用の物の占める面積が広い。湯葉は、デパートに少し置いてある程度、味噌は、東は米味噌、西は麦味噌が主流のようである。麦味噌は甘味が強く、こし味噌は見つけられなかった。そして、水戸で黄門様の次に有名な納豆は、練がらし付以外、考えたこともなかったが、ここでは、わざわざ付も売られている。ちなみに、テレビネタではNo.1は熊本メーカーのものだそうである。

引越し荷物が片付いたころには、すでに葉桜となり、新緑の美しい季節になっていた。五月も終わりに近づくと、もう、スイカが登場するのは、さすがに南国だとおそれいた。

しかし、七月になってはまだ、りんごがたくさん売られているのは、りんご好きの私には、親しみ以上のものを感じた。そして、長茄子とはいうけれど、これだけ長いのは、きつと日本一だろう。

冬のカツオ菜も、かなり、限定された地域の野菜のようである。県内でも小倉に実家のある友人は、食べた記憶がないと言っていた。



地物が中心の鮮魚店には、最も足繁く通い、様々なことを教えてもらった。魚の名前、由来(かんばちはなぜこの名がついたかなど)、料理法、「『関』のつくブランド物より玄界灘産の方が安くおいしい」等々。

【目に青葉 山ほととぎす 初鯉】は、全国区の風物ではないことも体験的発見であった。茨城は、高知とならんで、鯉の消費の多い所で、五月も中ごろになると、魚売りの半分以上は鯉が並ぶ。ここでは、隅の方に申し訳程度に、しかし、立派な値札が付いて売られている。

カニは、北海道産の毛ガニと、南の海の色鮮やかなものが仲良く並んでいておもしろかった。

圧巻は「たらい」である。博多の伝統食で、夏バテ防止に、とのお盆のちそうなのだそう。初めて見た時は、食べ物とは思えなかった。漢字で書けば、たぶん「鱧胃」。



北国でおいしく鱧ちりをいただいた後の、骸骨と胃袋の干物である。

北の方で加工され、博多で食されるよう北海道在住の知人は、これを知らなかった。ぶつ切りにして、一昼夜水にもどし、甘辛い味付けでこここ煮て、食卓にのぼるといふものである。

ものめずらしさにつられて試してみたが、何日分もの私のお昼にしかならなかった。



別名：たらおさ：タラのえらとはらわたを干した物。棒ダラを作った残りで作る。「タラは北海道」と言われるように、北国で取れる魚。棒ダラは関西などにも出回るが、たらおさとなると、その多くが九州で消費されている。
大分合同新聞社「おおいだ逸品」より

札幌から福岡に転勤なさった先輩は、この方が魚の種類が多くて、楽しみが多いとおっしゃっていたが、私自身、三年経ってもまだ、初めて見る魚があった。
鯛も、真鯛、甘鯛、黒鯛(チヌ)、



連子鯛(レンコダイ 別名キダイ)：と覚えてきれない。

時には、鯛よりお手ごろな時もあるので、うれしいやらあきれられるやら。この三年間、実は高級魚、様々な鯛の試食会のような食卓であった。

かくして「めでたくなくとも鯛」のおかげで、長時間通勤者も、朝補習で一日が始まる忙しい高校生も、エレベーター無しの上五階(荷物運ぶ買い出し担当も、元気に、この地での生活に終止符を打つことができた。

私が愛媛県に生まれ、大半の年月を関東地方で暮らしてきたことは、先に述べた。そしてその間、自分の出身地がどこだなど、それほど意識したことはなかった。しかし、福岡への転居が決まり、友人、知人に話をする、ご本人、もしくは御家族が西日本(兵庫、福岡、佐賀、大分、鹿児島など)出身者の多いことにびっくりした。いざ、住んでみると、居心地が良いのである。

まずは言葉。テレビの情報番組のスイーツを入れると、両親の口から出ているのによく似た言葉が聞こえてくる。「なんしょん!北九州」は代表格である。

次はまた食べる話になるが、祖母も母も、よく魚のスープを作っていたが、ここでも、だまっていたも、コッパ(あら)をすぐ使えるようにして袋に入れてくれる。父の好物の魚の煮つけも西の方が好まれるのかなあという気がしている。煮ておいしい魚の種類が多いのだろう。

そして一番の理由は「人」である。開放的で親切、表情がとげとげしくなく、なんというか、ほんのり、ほんわか、なのである。

水戸ナンバーの車が袋小路でこまっている、見知らぬ人が、こちらがお願いする前に道を教えてくれ、無事通り抜けるまで、見ていてくれる。スポーツジムで出会った人にも、足に詳しい靴屋の御主人にも、ずいぶん親切にいただいた。志賀島から、

おいしいいちごを売りに来ている異字同名の晴美おばさんとも、なかよくなりました。

ラジオの番組で、沖繩の離島に移り住んだ方(写真家?だったか)が、島民はどこにでも広がっている海に囲まれた土地柄、どこから来る人でも歓迎してくれる、というような話をしていた。転勤族に人気の高い福岡も、きっと、よそから来た者を受入れる土地柄によるところが大きいと思う。そういう意味での「島国根性」なら、おおいに發揮したいものである。

八年前。茨城では、原子力関連会社で放射能漏れ事故という人災が起きおおいに揺れた。我が家は、安全ボーダーラインである半径十キロのほぼ円周上にあつたので、たいへん不安な思いをした。

二年余前、福岡でも大地震があり、今も、たいへんな生活を送っている方々がいる。この地震も含め、福岡での三年間は、私の人生にとっても、おおいに揺れた期間となつた。

初めての新年を迎えた後、ガンを患っていた弟が亡くなった。そして、その春に、あの地震である。

二度目の新年を迎えてまもなく、急な腹痛にみまわれ、小腸を約三十センチ切除する手術をした。このおかげで、おしいものがあふれていても体型を維持できた。今は冗談を言えるほど元気である。ちょうど、弟の一周忌をひかえていたが、法事をすっぽかし、すぐにとんできた母には、今も申しわけなく思っている。そんなこんなを考えると正直、「私には西が鬼門かしら」と落ち込むこともあつた。

しかし、福岡を去る(去らなければならぬ)日が近づくにつれ、思い出すのは、息子を通じてできた友人達との日々、近くのスポーツジムで始めたスカッシュで盛り上がった仲間とのこと、そして、手術から回復してきたころから始まった、同窓会の皆様とのふれあいである。

どれもが、すうすうしくも、いつからそこにいるのかを忘れるほど、自然であたたかいものであつた。楽しい思い出が山ほどあり、ほんとうに感謝でいっぱいである。人とのあたたかい関係は辛いこと、悲しさをやわらげてくれた。まさに「人」と言う字の成り立ち、そのものである。

東京の夫の実家で新しい生活が始まって、まもなく二月月になる。人込みは皆、自分の行く手しか目に入らないのかと思うような雰囲気である。初めて都会暮らしをする人のいう「都会のつめたさ」を少しわかつたような気がする。

そして買い出し担当は、福岡とは大きさ、量、質と、価格が反比例している売り場で時間のかかる買い物をする日々である。もう、じゅうぶん里心はついてるが、ほんのり、ほんわか、私も西の人として、もうひとつ「住めば都」を築きたいと思っている。最後に、私の「めでたい福岡(ペンサイ)！」
(平成十九年九月寄稿)



事務局から

1. 会員の異動

第3号九州朝陽会報掲載以降10月27日現在の会員の動向は左記のとおりです。尚、これ以外の情報や詳細については事務局にお問い合わせ、ご連絡ください。

【退会】

小山 春美(新25回)東京移住
平田 光宏(新13回)東京転勤移住
山淵 泰(新31回)千葉県移住
幸村 久(新4回)、野沢 秀樹(新11回)、後藤 晴子(新27回)、碓 宏八郎(新7回)、日高明(旧15回)

【逝去】

手塚 有朋(旧12回)

馬場 兼志(旧14回) 平成19年4月27日

【地域外会員に変更】 平成19年4月21日

【地域外会員に変更】

島崎 春彦(新6回)東京移住

11月1日現在の会員は左記のとおりです。

正会員 70名

地域外会員 4名 計74名

2. 19年度会費の納付

総会参加者は19年度会費を納付済みです。不参加の方は同封の振替用紙にて納付ください。尚、18年度会費は79名(二夫婦2組)納付、5名未納の状況です。

3. 新年度幹事

会長 石井 幸孝 (新3回)

幹事長 小泉 純理 (新7回)

幹事 小林 牧 (新28回)

山下 美智恵 (新29回)

白井 康生 (新47回)

豊田 信夫 (新7回)

監査役

編集後記

山下 美智恵(新29回) 記

「年三回発行」事務局長の宣言に、原稿の集まりを心配しつつ始めた昨年の夏。私の心配は杞憂に終わり、第四号も早々九月には大作二篇が寄せられました。

豊田様の「教科書検定問題」は、その後、沖繩での十万人集会の様子や、二院のねじれを受けた与党と、文科省の揺れ動く答弁、十一月に入り教科書会社4社らの「検定意見撤回要求」などが報道されました。

62年目。戦時制のことが時の施政者によって「歴史」に編まれようとする今こそ、その行方が注目されます。その真実を生に伝えていただける機会は、貴重です。

小山様が帰京されるまでの期間限定福岡ライフを、かくも充実して過ごされてたのか！と感服。特筆は「たらい」。店頭であのおかで様の干物を買って調理して食べよう、いや食べたという方を私は寡聞にして知りません。干物と調理後の資料写真を掲載しました。小山様の類稀なバイタリテイの一端が伝わりますように……

ご寄稿を、楽しみにお待ちしております。

【発行元】

九州朝陽会事務局

〒811-3221

福津市若木台

1-20-7

TEL&FAX: 0940-43-5545

【事務局長】

小泉 純理(新7回)

E-Mail: kjun612@nifty.com

注: アドレス変更しました。